

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600197	事業の開始年月日	平成24年3月1日
		指定年月日	平成24年3月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 あさお		
所在地	(〒215-0023) 神奈川県川崎市麻生区片平7-1-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成28年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花物語あさおは、小田急線柿生駅「北口バス乗場」より、小田急バス「稲城駅」行、「矢野口駅」行、「若葉台」行で約5分。片平中央で下車し徒歩1分。又は、小田急多摩線五月台駅から徒歩15分程のところ、閑静な住宅街にあり、花物語あさおの名前の通り、お花に囲まれ穏やかに生活しております。</p> <p>平成24年3月1日に開設。認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の複合施設です。</p> <p>共同生活でありながらも、お1人おひとりの“個”を尊重し、その人らしく、当たり前前の生活をお過ごしいただけるよう、職員一丸で取り組んでいます。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年11月24日	評価機関 評価決定日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は小田急多摩線五月台駅から徒歩十数分の静かな住宅地に立地している。付近にはミカン畑や公園があり、すぐ裏を流れる片平川には緑道が整備され、恵まれた環境にある。鉄骨3階建ての建物の1階には小規模多機能型事業所が併設されており、運営推進会議やイベントを合同で開催している。外壁のフェンスにパンジーなどの季節の花、玄関前にはポインセチアの寄せ植えを飾り、庭では草花や野菜を育てるなど「花物語」の名に相応しい佇まいである。</p> <p>【理念の実践】 「『安全第一』に努め、『その人らしさを』を優先に考え、心から利用者様を大切にする」を事業所の理念に掲げ、職員は利用者が楽しみながら毎日を生き生きと暮らせるよう、その人の気持ちを尊重した個別の支援に力を入れている。散歩が好きな方、塗り絵が好きな方、それぞれの好きなことを優先して行えるよう、業務の工夫をし、利用者に寄り添う時間を増やしている。</p> <p>【多様な外出支援】 家族や職員から「外出の機会を増やして」との要望があり、2か月毎に法人の車で出掛ける「外出レクリエーション」を実施し、動物園や水族館、海ほたるなどに出かけた。今年度から「お出かけプロジェクト」を発足させ、職員が企画から下見まで担当し安全に外出できるよう準備にあたっている。また、日常的な外出としてはその人のペースに合わせて毎日午前と午後2回の散歩を行い、車いす利用の方も途中で車いすから降り、片平川の緑道を10メートルほど歩くなどリハビリを兼ねて同行している。途中の公園では地域で行う「公園体操」に参加する方も数名いて、地域の方との触れあいを楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語あさお
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・各フロア入口に事業所理念を掲示しています。ケアの中で疑問点や不安を感じた時など、常に「理念」に立ち返りカンファレンスやフロア会議を通して課題抽出・解決をしています。会議に参加できない職員も議事録や申し送りを通して周知・共有しています。	「その人らしさを優先に考え、心から利用者様を大切にする」を理念に掲げている。職員はカンファレンスで共有して、利用者が「その人らしく」暮らせるよう、塗り絵や散歩など一人ひとりのやりたいことを支援している。現在の管理者になって1年が経過したのを機に、理念の見直しを考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の夏祭りや、近隣の公園での「公園体操」に参加。顔なじみとなった方々と入居者が交流をしています。	片平町内会に加入し地域の一員として夏祭りや地域の清掃活動、公園体操、小学校の盆踊りに参加している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所が2カ月ごとに開催する「健康祭り」に参加している。フラダンスや歌のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の盆踊りに参加し、地域の方に認知症の人とふれあいの場をもつていただくと共に、認知症の人でも出来る事を理解していただけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では状況報告を行った後、参加者が全員意見を出せるよう取り組んでいます。その中で、イベントの相談や地域の行事などの情報交換を行っています。	地域包括支援センター、家族、利用者、町内会長が出席し、2カ月に1回併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。事業所の活動や運営状況の報告の後に意見交換を行い、地域のイベント情報などを得ている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>麻生区近隣の地域包括支援センターや、麻生区の高齢支援課へ定期的に訪問し、運営状況や運営推進会議の日程、入居者の相談に乗っていただきアドバイスをいただいています。</p>	<p>区の高齢支援課に利用者の案件で相談をする他、定期的に出向き情報交換を行っている。地域包括支援センターとは利用者の紹介を受けたりし協力関係を築いている。市や区主催の研修に出来る限り参加している。</p>	
---	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて「身体拘束ゼロの手引き」をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている入居者はいらっしゃいません。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、入居者のご要望に応じて職員と共に外出していただいています。	「身体拘束ゼロの手引き」をマニュアルとし年1回研修を行っている。スピーチロックなどの事例をあげ、拘束をしないためにはどうしたらよいかを検討し、管理者はその都度利用者優先であることを伝えている。玄関、各ユニットの鍵は安全上家族の同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	会議や研修の中で、事例検討を含め、どういう場合が虐待になるうるケースなのか話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見逃さないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このサービスを必要としている入居者は、まだいませんが、認知症ケアを行う上で、必要な知識として、職員間でも話し合いの場を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向として、ケアに反映しています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や、随時の電話連絡により、ご家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の入居者との関わりやご家族との相談の中で、外出や趣味嗜好のことなどできる限りお一人おひとりにあった取組を提供しています。</p>	<p>運営推進会議の折や面会時に家族と1対1になって話を聞いており、気軽に意見や要望が出ている。「外に連れて行って欲しい」の要望には、調理に費やす時間を法人の配食サービスに切り変えるなどして、利用者に寄り添う時間を増やし対応した。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議や社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。各職員からの声を聞き意見の検討を行い、随時取り入れています。	月1回開催するユニット会議や日常の支援の中で、職員の意見を聞き取っている。「外出の機会を多くしたい」と提案があり、職員の中から「外出レクリエーション」担当を決め、企画することにした。気づきボックスやサンクスカードを設置し、直接法人に意見を言える体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらうよう、伝えています。無資格者には、資格獲得支援制度などの奨学金制度を活用し取得している人もいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加、資格獲得を推進するなど、ここのスキルの向上を働きかけている。また、採用時の新人職員研修では介護の基礎・マナーを含めた座学と、2日間の実施実習を取り入れています。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。また、他事業所との職員間交流を行っており、サービスの向上を心がけています。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族や入居者ご本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりとり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を多く築けるよう努め、どんな事でも話して頂けるような関係性を持つようにしている。入居者ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者ご本人やご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取る様常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用して頂けるよう努めています。入居者の小遣い持参について、ご家族から要望があり、小さな金額に収めて頂くこと、ご家族が管理していただくこと、来設時に確認すること、使用する場合はご家族に連絡するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、入居者とご家族の物理的・精神的環境を考慮し、GHが適切かどうかを考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		

18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の意見を第一に尊重し、入居者様のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力し合いながら生活できるよう努めています。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご家族の意見も反映できるようにし、入居者の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声掛けの仕方を工夫したり、入居者の要望に応じ、写真を持参してもらっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には出来る限り面会に来ていただけるようご相談しています。面会時には、入居者が馴染みの喫茶店でお茶を飲んだり、古くからの友人・知人の方が面会に来てくださる方もいます。	友人の来訪時には、居室で寛いでいただき茶菓でもてなしている。生まれ故郷への旅行やお墓参りなどは家族が対応している。また、子供の頃に行った動物園に行きたいという希望があり、皆で多摩動物園に出掛けた。馴染みの美容院への送迎を職員が行うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事、盆踊り大会等、入居者同士の親睦を深めるため2ユニット合同で行っています。また、食事の席の配置にも心がけ、気心が知れた関係作りを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でもご家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援行っています。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が維持できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望に合わせ、食事内容の変更、買い物のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	日々の暮らしの中で利用者に寄り添い希望や意向の把握に努めている。職員と1対1になった時に自分の気持ちを話してくれるので、じっくり傾聴し受け止めて、計画に反映させている。把握が困難な方は表情や雰囲気の変化を見逃さず、いろいろ試しながら、思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の担当ケアマネージャー及び、ご家族やご本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が維持できるよう、利用にいたる敬意や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が維持できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、ご本人やご家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にすると共に、ご家族からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	計画作成担当者と居室担当職員が話し合い素案を作り、職員で検討し、家族・本人、医師の意見を反映させて介護計画を作成している。モニタリングは6か月に1度、変化にはその都度対応し介護計画の見直しにつなげている。計画書のサービス内容を個人記録の実施項目欄に連動させ、職員は常に目標を意識しながら支援にあたっている。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に時間ごとのご様子や、利用者の言葉や様子を観察を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、ご本人とご家族の関係性（今までの生活暦等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調和など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	片平町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得て、この夏は、清掃活動にも参加し活動を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医が異なるため、受診後の医師からの指示や服薬情報などご家族と共有しています。必要に応じて受診に同行したり、MSWとの情報提供も行っています。	協力医の往診が月2回あり、殆どの方が受診している。内科のほか整形、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科も往診して貰える。入居前からのかかりつけ医を受診する方は原則家族対応だが、受診報告書で情報を共有している。訪問歯科医が週1回看護師も週1回と必要に応じ来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行ったり、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護のつなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中のお見舞いやご家族との連絡を取ることで、ご本人の状態を把握するよう努めています。また、近隣の病院に訪問し相談員等との関係作りに努めています。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「高齢者に起こりうるリスク」について説明し同意を得ています。重度化や終末期の段階を見極め、必要に応じて主治医や家族、関係機関とも連携し入院や在宅での看取りの方向性を支援しています。	入居時に急変時や重度化した場合の対応についての指針を説明し同意を得ている。終末期の段階を見極め、家族の協力や、医療連携体制を整え、今年度2名の方を見送った。看取りにあたっては管理者がその時々々の症状に合わせて介護内容を記した書類を職員に渡し対応した。	重度化対応マニュアルを新規に作成したのを機に、体験談を聞いたり、専門家による研修を行い看取りの体制を整えておくことが望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市麻生消防署と連携し、夜間想定防災訓練を実施します。また、災害時備蓄品も備えています。	年2回防災訓練を実施しており、前回は夜間想定訓練を行った。次回は12月に実施予定である。今年度は法人の防災訓練に参加し、煙対策や車いすの方の避難時の誘導方法を学んだ。近隣住民に訓練への参加の声掛けをしているがまだ参加は得られていない。食料、水など3日分備蓄しているが備品が揃っていない。	地域の防災訓練に参加し事業所を知ってもらうとともに、地域の消防団、近隣住民への協力依頼が望まれます。カセットコンロ、簡易トイレなどの備品の整備を期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の年を持って接しています。たとえ意思疎通が困難になったとしても、その方の生活暦や趣味等をアセスメントし、カンファレンスにて討議しています。安心して生活できるよう声掛けや介助の方法を工夫しています。	「その人らしさを尊重し、その人に合った言葉遣いで接する」を職員全員が念頭に置き、利用者本位を常に意識して支援に努めている。管理者は言葉掛けや会話に注意を払い、排泄時の対応などに特に配慮している。個人の書類は鍵のかかる書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう心掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、加納な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、またはのんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの利用者が自分で衣類を選んでいきます。季節やTOPに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行い支援しています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みやできる力を把握し、利用者を確認しながら、調理をする人、片づけをする人など役割を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。時々手作りのおやつを一緒に作って楽しんでいます。	法人の配食サービスを利用しているが、12月からチルド食に変更する予定である。利用者は下膳や食器洗いなどできることに参加している。月に1回、利用者の好きな餃子やクッキーなどを一緒に作っている。外出の際には海ほたるでランチを食べるなど外食を楽しんでいる。お誕生日には職員がケーキを手作りしてお祝いしている。	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの優れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	自立度の高い方が多いので声掛けのみ行い、訴えのない方は排泄チェック表に記録してパターンを把握しその人に合わせて誘導している。病院から退院後にリハビリパンツから布パンツに変更し、改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残すことで、便秘の早期発見と予防に努めています。また、随時体操を取り入れたり、家庭での飲水量の確保を促したり便秘の予防に心がけています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の意思を尊重し、気分良く入れるように努めています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導など工夫をしています。入浴が出来ない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。</p>	<p>入浴は週2回を基本とし、午前、午後の好きな時間を選択して貰っている。お湯は一人ずつ交換している。夏場はシャワー浴を追加している。入浴剤や職員の家の庭で採れたゆずを使って季節のお風呂を楽しんでいる。入浴日を意識して貰うため各ユニットに入浴表を貼っている。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察を行い、ご本人に聞いてから休息の支援を行っています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した往診記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つことで生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。台所仕事が好きな方には、調理や片付け等を職員と一緒にっており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。また、天気の良い時は洗濯物やお布団を干していただいています。今年も畑でジャガイモやトマト、トウモロコシを栽培し収穫も楽しみました。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援していません。今年からお出かけPJを発足し季節の花々や公園のトイレの場所、駐車場の位置などを把握し安全に外出できるよう体制を整えています。	天気の良い日は近くの川沿いの遊歩道や公園に散歩に出掛けている。車いすを利用している方もリハビリの為、途中で10メートルほど歩いてもらっている。2か月に1度、法人の車でお花見、動物園、水族館、海ほたるなどに出掛け、気分転換をしている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は主にご本人で行っていただいています。管理が出来ない方の場合、事務所で立替え金として請求しています。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、ご家族了解の下、電話ができるように支援を行っています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、近所で買ってきた花や季節に合った飾りなどをフロアの壁には利用者の作品等を飾り、利用者のご家族や来訪者との会話にもつながっています。	共有空間は日当たりが良く、クリスマスツリーや季節の花、夏祭りですくった金魚の水槽が置かれ、温かい雰囲気漂っている。明るめの色調のテーブル、テレビ、ソファが置かれ、利用者は思い思いの場所に座り、塗り絵など好きなことを楽しんでいる。利用者の作品や行事の写真が壁を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつの際も性格などを考慮し配置しています。食後やゆったりとしたい場合は、ソファやテレビの見える場所やフロアに居やすい環境を作っています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	エアコン、ベッド、クローゼットが備えられた居室に、使い慣れたダンス、鏡台、テレビ、本などを持ち込み自宅と同じように暮らしている方や、殆ど物を置かない方もいて、各自が居心地の良い部屋作りをしている。加湿器や濡れタオルで湿度の管理をしている。		

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は認知症があってもわかるように同じ場所にご案内し一人でもできるよう支援しています。また、車いすの方が一人でも移動できるようテーブルや椅子の配置を考慮しています。		
----	--	---	---	--	--

事業所名	花物語あさお
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・各フロア入口に事業所理念を掲示しています。ケアの中で疑問点や不安を感じた時など、常に「理念」に立ち返りカンファレンスやフロア会議を通して課題抽出・解決をしています。会議に参加できない職員も議事録や申し送りを通して周知・共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の夏祭りや、近隣の公園での「公園体操」に参加。顔なじみとなった方々と入居者が交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の盆踊りに参加し、地域の方に認知症の人とふれあいの場をもつていただくと共に、認知症の人でも出来る事を理解していただけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では状況報告を行った後、参加者が全員意見を出せるよう取り組んでいます。その中で、イベントの相談や地域の行事などの情報交換を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	麻生区近隣の地域包括支援センターや、麻生区の高齢支援課へ定期的に訪問し、運営状況や運営推進会議の日程、入居者の相談に乗っていただきアドバイスをいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて「身体拘束ゼロの手引き」をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている入居者はいらっしゃいません。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、入居者のご要望に応じて職員と共に外出していただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	会議や研修の中で、事例検討を含め、どのような場合が虐待になるのか話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見逃さないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このサービスを必要としている入居者は、まだいませんが、認知症ケアを行う上で、必要な知識として、職員間でも話し合いの場を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向として、ケアに反映しています。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の面談や、随時の電話連絡により、ご家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の入居者との関わりやご家族との相談の中で、外出や趣味嗜好のことなどできる限りお一人おひとりにあった取組を提供しています。		
----	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議や社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。各職員からの声を聞き意見の検討を行い、随時取り入れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらうよう、伝えています。無資格者には、資格獲得支援制度などの奨学金制度を活用し取得している人もいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加、資格獲得を推進するなど、ここのスキルの向上を働きかけている。また、採用時の新人職員研修では介護の基礎・マナーを含めた座学と、2日間の実施実習を取り入れています。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。また、他事業所との職員間交流を行っており、サービスの向上を心がけています。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族や入居者ご本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりとり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を多く築けるよう努め、どんな事でも話して頂けるような関係性を持つようにしている。入居者ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者ご本人やご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取る様常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用して頂けるよう努めています。入居者の小遣い持参について、ご家族から要望があり、小さな金額に収めて頂くこと、ご家族が管理していただくこと、来設時に確認すること、使用する場合はご家族に連絡するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、入居者ご家族の物理的・精神的環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスにつなげています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		

18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の意見を第一に尊重し、入居者様のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力し合いながら生活できるよう努めています。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご家族の意見も反映できるようにし、入居者の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声掛けの仕方を工夫したり、入居者の要望に応じ、写真を持参してもらっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には出来る限り面会に来ていただけるようご相談しています。面会時には、入居者が馴染みの喫茶店でお茶を飲んだり、古くからの友人・知人の方が面会に来てくださる方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事、盆踊り大会等、入居者同士の親睦を深めるため2ユニット合同で行っています。 また、食事の席の配置にも心がけ、気心が知れた関係作りを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でもご家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援行っています。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が維持できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望に合わせて、食事内容の変更、買い物のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の担当ケアマネージャー及び、ご家族やご本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が維持できるよう、利用にいたる敬意や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が維持できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、ご本人やご家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にすると共に、ご家族からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。		

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に時間ごとのご様子や、利用者の言葉や様子を観察を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、ご本人とご家族の関係性（今までの生活暦等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調和など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	片平町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得て、この夏は、清掃活動にも参加し活動を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医が異なるため、受診後の医師からの指示や服薬情報などご家族と共有しています。必要に応じて受診に同行したり、MSWとの情報提供も行っています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談を行ったり、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護のつなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中のお見舞いやご家族との連絡を取ることで、ご本人の状態を把握するよう努めています。また、近隣の病院に訪問し相談員等との関係作りに努めています。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「高齢者に起こりうるリスク」について説明し同意を得ています。重度化や終末期の段階を見極め、必要に応じて主治医や家族、関係機関とも連携し入院や在宅での看取りの方向性を支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市麻生消防署と連携し、夜間想定防災訓練を実施します。また、災害時備蓄品も備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の年を持って接しています。たとえ意思疎通が困難になったとしても、その方の生活歴や趣味等をアセスメントし、カンファレンスにて討議しています。安心して生活できるよう声掛けや介助の方法を工夫しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう心掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、加納な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、またはのんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの利用者が自分で衣類を選んでいきます。季節やTOPに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行い支援しています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みやできる力を把握し、利用者を確認しながら、調理をする人、片づけをする人など役割を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。時々手作りのおやつと一緒に作って楽しんでいます。		
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの優れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残すことで、便秘の早期発見と予防に努めています。また、随時体操を取り入れたり、家庭での飲水量の確保を促したり便秘の予防に心がけています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の意思を尊重し、気分良く入れるように努めています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導など工夫をしています。入浴が出来ない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。</p>		
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察を行い、ご本人に聞いてから休息の支援を行っています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した往診記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つことで生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。台所仕事が好きな方には、調理や片付け等を職員と一緒にしており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。また、天気の良い時は洗濯物やお布団を干していただいています。今年も畑でジャガイモやトマト、トウモロコシを栽培し収穫も楽しみました。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。今年からお出かけPJを発足し季節の花々や公園のトイレの場所、駐車場の位置などを把握し安全に外出できるよう体制を整えています。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は主にご本人で行っていただいています。管理が出来ない方の場合、事務所で立替え金として請求しています。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、ご家族了解の下、電話ができるように支援を行っています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、近所で買ってきた花や季節に合った飾りなどをフロアの壁には利用者の作品等を飾り、利用者のご家族や来訪者との会話にもつながっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつの席も性格などを考慮し配置しています。食後やゆったりとしたい場合は、ソファやテレビの見える場所やフロアに居やすい環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は認知症があってもわかるように同じ場所にご案内し一人でもできるよう支援しています。また、車いすの方が一人でも移動できるようテーブルや椅子の配置を考慮しています。		

目 標 達 成 計 画

花物語あさお

〒215-0023 川崎市麻生区片平7-1-1

TEL 044-981-0487 FAX 044-981-0488

事業所名

作成日

28. 3. 31

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	I 1 2	事業所と地域とのつながりが出ていない	近隣の小学校、中学校、保育園との交流を増やし、入居者様に子供達とのかわりをもってもらうようにしたい。	近隣の小、中、保育園の運動会などに見学に行き交流を増やしていく。	平成28年秋の運動会頃までに。
2	7 1 13	職員を育てる取組み	OJTに基づき段階を追いながら職員への向上、技術カマッポを育てていく。	昨年各フロアから名簿の職員をOJT研修に参加させ勉強成長しているのを特に好評	平成28年4月から1年間
3	14 1 36	一人ひとりの人材の尊重とフレキシビリティの確保。	その方を失くす、その方に寄り添うを目標に勉強会やカンファレンスも行ないその方を尊重する。	月に1回はカンファレンスを行い、職員全員でその方を把握して共有していく。	平成28年1年間。
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。